

郷土にほれ話

地域の神楽 風影神社に伝わる祭詞案文

祭詞

春光麗なる養蠶絲祭の吉辰に當りまして吾等
 養蠶實行組合は茲に恭しく養蠶大神
 を祭祀し大神の大前に謹み恐みて日
 上げ奉ります。

掛巻も畏さ、養蠶大神は神代の昔我が國土に
 五穀蠶桑を創生し給ひ、皇祖天照大神是を瓊
 瓊杵尊に授けさせ給ひてより代々に傳はり、
 畏くも歴代の皇宗亦斯の業に大御心を注がせ
 給ひまして、天壤無窮の御稜威と廣大無邊な
 る御神徳とによりまして、斯業は彌榮えに榮
 えまして輝かしき蠶絲業の今日在るを得たの
 であります、吾等はこの尊き皇道精神に發祥
 せる蠶絲の業にいそしみますることを常に光
 榮とし又恒に御威徳に隨喜渴仰いたしまして
 蠶桑の愛護と化育に精進を怠ぬものであり
 ます。

今や銃後に於ける蠶絲業は、國策上更に重要
 性を増し吾等の任務の愈々重大なることに深
 く思を致しまして、組合員の和協一心と勤勞
 奉公の信念を堅めまして、誓て蠶絲報國の赤
 誠を盡し、以て深遠なる御神意に添ひ奉る念
 願でございます。

冀は、吾等の微意を享けさせ給ひ、彌尊く
 彌崇き御神明の御加護によりまして、養蠶豊
 作の歡喜と福祉とをお與へ下され、吾等をし
 て銃後の護を完ふせしめ給はらむことを、茲
 に謹み恐みて御祈願申上奉ります。

恐惶再拜

昭和十三年三月二十八日

養蠶實行組合

代表者

(片倉石原製糸所案文)

*昭和13年の案文を、写真として文書化しました。
 仮名遣い・漢字・書体が現在とは異なります。文も現在とは大
 きく異なっています。

参考文献：「祭詞(案)」昭和13年 片倉石原製糸所作
 制作：むらた ひとし